

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104141		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホーム棕野式番館		
所在地	下関市棕野3丁目4-26		
自己評価作成日	令和元年9月25日	評価結果市町受理日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年10月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と共に家族のように楽しく、ゆつくりと生活できるよう支援しています。毎日、利用者と一緒に買い物に行き、季節に合った献立を決めています。ひとり一人の出来る力に合わせて、調理の手伝い、配膳、後片付け等一緒にを行い、職員も一緒に食卓を囲んで楽しく食事をしています。掃除、洗濯、畑の世話等家で暮らしていた時のように役割を持って生活できるように支援しています。  
月に1度 外食、外出の機会を作り、楽しみのある生活の援助をしています。また、日常的に散歩や近くの公園への外出等を行い、画一的な介護にならないようにしています。地域の行事にも積極的に参加しています。家族会を年数回行い、ご家族とのつながりが深まるように支援しています。毎月、ホーム便りを作り、日々の生活をお伝えしています。ご家族や知人の面会、ご家族との外出も気軽にできるよう支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関りの中での利用者のことばや表情を記録する「24時間シート」の様式を工夫され、新たに「気持ち・私の思い」欄を設けられて、職員間で話し合われて、利用者の思いや意向の把握に努めておられます。職員に、外部研修参加の機会を提供され、受講後は資料を回覧され、職員会議で復命されて全職員で共有されている他、法人研修は、月2回同じテーマで実施され、全職員の受講の機会を確保しておられ、計画的(2年1クール)に職員の資質の向上を図っておられるなど、職員を育てる取り組みをしておられます。年3回家族会を開催され、家族と利用者、職員と一緒に外出や食事、ケーキづくりを楽しまれるなど、家族とのつながりを大切にされ、家族と協力されながら利用者の楽しみごとや活躍できる場面づくりに取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らすということを根幹として、職員が意見を出し合って理念を作り、リビングのいつも見えるところに掲示して、理念を共有し、日々のケアに活かしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。朝礼時に唱和している他、年1回「理念の共有と実践について」内部研修を実施し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。利用者と一緒に回覧板を回したり、散歩時は挨拶を交わしている。自治会の行事にも積極的に参加するようにしている。 認知症カフェに利用者や職員が参加し、地域の人と交流している。月1回の廃品回収にも協力している。	自治会に加入し、職員は年1回の地域の草刈作業に参加している他、月1回利用者と一緒に地域の廃品回収や認知症カフェに参加して地域の人と交流している。利用者は、大学キャンパスで学生ボランティアが行っている焼き芋会に参加して、他の事業所の利用者や大学生と交流している。ボランティア(子供平家太鼓、大正琴)の来訪がある他、年1回中学生の職場体験を受け入れている。自治会の要望により、地域包括支援センターと協力して徘徊模擬訓練を実施している。近所の人から不要になった布団干しを譲りうけたり、周辺の散歩やゴミ出しの時に地域の人と挨拶を交わしているなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治体の方に認知症の方の理解や、支援の方法を伝えている。地域の認知症の方の相談も行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価を実施する意義を説明し、項目を分担して全員で取り組んでいる。評価をすることによって、日々のケアの見直しにつなげ、質の向上に活かすようにしている。	管理者は、職員会議で評価の意義について全職員に説明し、項目ごとに担当を決めて、自己評価のための書類を配布している。職員がガイド集を参考にして記入したものを全職員で読み直して、管理者がまとめている。職員は、自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。運営推進会議の地域メンバーを増やしたり、利用者の思いの把握のために記録様式を工夫しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現状取り組みを報告し、会議のメンバーからの意見を参考に運営に活かしている。地域の情報をもらい、協力するようにしている。	会議は、二つのグループホームが合同で2か月に1回開催している。地域メンバーとして新たに自治会長1名の参加を得て、利用者状況、行事や研修報告、事故・ヒヤリハット等を議題として意見交換している。避難訓練時の協力依頼や認知症カフェ、地域の徘徊模擬訓練の情報交換を行い、地域との交流や協力を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは書類提出で出向いた時などに相談し、助言を得るなど、協力関係を築くようにしている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時や、認知症カフェ参加時に情報交換をしており、協力関係を築くようにしている。	市の担当者とは、電話やFAXで情報交換している他、介護保険申請時に直接出向いて相談したり助言を得ているなど、協力関係を築くように努めている。地域包括支援センター職員とは、電話やFAX、運営推進会議や認知症カフェ参加時に、利用者や地域の状況について情報交換や相談をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っており、職員全員がその内容と弊害について理解できるよう、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しているが、外に出たい利用者は職員と一緒に外に出て気分転換を図っている。	職員をメンバーにした「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回開催している。職員は身体拘束について内部研修で学んで正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出たい利用者に気づいたときは、職員が一緒に出かけて気分転換を図っている。スピーチロックについては、管理者が指導したり、職員間でも注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時の研修で、高齢者虐待防止関連法について研修し、施設内で虐待が行われることがないように防止に努めている。職員にストレスチェックを行いストレスのないようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で、権利擁護に関する制度について研修し、理解を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、契約書の説明を丁寧におこなっており、納得してもらっている。不安や疑問点にも納得がいくまで説明している。 契約解除時も十分な話し合いをした上で、納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談、苦情の受付体制について説明している。家族からの相談、意見は、面会時や家族会などで聞くようにしている。意見、要望は職員にすぐ伝え、ケアに反映させている。	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて利用者と家族に説明している。面会時や年3回の家族会出席時、行事への参加時、電話で家族の意見や要望を聞いている。意見が出やすいように言葉かけや丁寧な対応に心がけている。ケアに関する意見や要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には本社役員も出席しており、職員からの意見を聴く機会を設けている。管理者はいつでも職員の意見を聞き、勤務体制の見直しや、ケアの流れの改善など、運営に反映させている。	月1回の職員会議や毎日の朝礼時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日々の業務のなかで随時職員に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者の安全のための福祉用具(ベッド、歩行器、浴槽内の滑り止め、入浴マット)の点検や交換、バランス食の献立、休憩時間の時間配分、職員の勤務体制の変更など、職員の意見や提案を日々の業務に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ES向上運動の実施を導入し、給与、労働時間、の改善を行い、職場環境・条件の整備に努めている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	月1回の職員会議の中で、内部研修を 行っている。年間研修計画を立て、職員 全員が学べるようにしている。法人研修は 月1回全員が受けられるように勤務時間等 配慮している。また、外部研修は、情報を 伝え、希望や段階に応じて、受けられるよ うにしている。	外部研修は、職員に報を伝え、希望や段階 に応じて勤務の一環として参加の機会を提供 している。リスクマネジメントに1名、ケアプラン の書き方に4名が参加し、受講後は資料を回 覧し、職員会議で復命して、全職員で共有し ている。法人研修は、月2回同じテーマ(接遇 マナー、ボディメカニズム、行動指針、個人情 報保護法など)で実施し、全職員の受講の機 会を確保して、計画的(2年1クール)に職員の 資質の向上を図っている。内部研修は、法人 内のグループホーム管理者が話し合っ て決めた年間計画に沿って実施しており、資料づ くりは、各グループホームの持ち回りとしてい る。月1回管理者が講師となって、接遇、応急 処置方法、食中毒、熱中症、災害時の対応、 看取り、ノロウイルス、インフルエンザ、権利擁 護、プライバシー保護、身体拘束などの内容 で実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協会からの情報、お知ら せをもらい、研修などに参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることをしっかり聴 き、思いを受け止めて安心して頂くように、 努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	サービス導入時、家族の不安や困ってい る事をお聞きし、思いを受け止め安心して 頂くことで、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、状況を把握し、その 時点で何が必要かを考え、出来る限りの 対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に暮らしているという関係にあり、一緒に掃除や料理、買い物を行っている。 味付けや畑の知識を教えてもらうなど共に暮らす関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時は、居室でゆっくり話せるように支援している。家族に手伝ってもらい場面も作りながら、共に支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問がある時は、居室や共有スペースでゆっくり話せるよう支援している。 年賀状、手紙、電話などでの交流を支援している 馴染みの店での利用など、これまでの関係が途切れないように支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の知人、宗教の仲間の来訪がある他、手紙や小包、電話の取次ぎなどでの交流を支援している。家族の協力を得ての外出、一時帰宅、美容院、百貨店での買い物、法事、墓参り、結婚式への参列など、馴染みの人と場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席やソファの座る席は、仲の良い人同士一緒に過ごせるように考え、いい関係が作れるように配慮している。トラブルになりそうなときは、職員が間に入り、回避するようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、移り住む先の関係者に本人の情報を伝え、今までの暮らしの継続につながるよう支援している。退去後もご家族の相談を受け、関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族に、基本情報シートを書いてもらい、今までの暮らし、思いを把握するようにしている。24時間シートに本人の気持ち状況など詳しく書くようにし、職員間で話し合いその思いをくみ取るようにしている。	入居時、家族に「基本情報シート」に記入してもらったものをもとに「入居時アセスメントシート」を作成して活用している他、日々の関りの中での利用者のことばや表情を「24時間シート」に記録している。様式に新たに「気持ち・私の思い」欄を設けて利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に聞いたり職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に基本情報シートを書いてもらい、今までの暮らし、生活環境の把握に努めている。また、親戚や友人に本人の昔のことを教えてもらい、生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの心身の状態の把握に努め、出来ることを少しずつ見つけていきながら、職員間で共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に本人の現状、希望する暮らし、家族の希望、医師の考えを参考にし、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	月1回、ミーティング時に利用者を担当している職員が中心となってカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、医師や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日のチェックを基に月1回モニタリングを実施し、3か月から6か月毎に介護計画の見直しをしている。家族の意向や利用者の状況の変化に応じてその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは個別に24時間シートに記録し、毎日申し送りを行って、職員間で情報を共有している。特に対応に必要な時は別の記録シートを作成し、詳しく記録を取るようになっている。それをもとに介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族が安心して暮らしていけるよう医療連携体制を整えており、利用者の身体状況の変化にすぐに対応できるように支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや病院など地域の方々と関わりや協力を得られることにより、安全で豊かな社会生活が送られるように支援している。認知症カフェや地域の行事等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に、本人や家族の了解を得て、内科、心療内科の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。受診結果はノートに記録し職員間で共有し、家族にも伝えている。</p>	<p>協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療があり、歯科は必要に応じて往診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は、家族には面会時に伝えたり電話で連絡し、職員には「申送りノート」と「先生連絡ノート」「個人ファイル」「24時間シート」に記載して共有している。休日や夜間の緊急時は、主治医と連携して適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制をとり、定期的に看護師の訪問がある。毎日の健康チェック表等を参考に日々の生活へのアドバイスを受けている。緊急時は24時間体制で対応を行っている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は安心して治療に専念できるように、家族や病院関係者と相談しながら早期退院できるようカンファレンスを行い、情報交換に努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針を説明している。 必要となった場合は、本人、家族、医師と相談の上、これからの方針を決めていくようにする。またその都度家族の思いを尊重している。</p>	<p>契約時に「重度化した場合における指針」および「看取りに関する指針」に基づいて、重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明している。入居時に意思確認書を交わしている。実際に重度化した場合は、早い段階で家族の意向を再度確認し、主治医や看護師の意見を聞き 方針を決めて共有しチームで支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <p>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>ヒヤリハットや事故報告書に記録し対応策を記入し回覧し、職員会議等で対策等を話し合っている。内部研修で応急処置の研修を行っている。</p>	<p>事例が生じた場合は、その場の職員が「ヒヤリハット報告書」または「事故報告書」を作成し、申し送り時に伝えるとともに、回覧して共有している。月1回の管理者会議で報告して再検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。運営推進会議でも報告している。地域包括支援センター主催の徘徊模擬訓練に参加している他、内部研修で、応急処置の方法、食中毒、感染症の予防、熱中症、ノロウイルスとインフルエンザをテーマに研修を実施し、年1回、拠点施設合同で救急救命士を講師にしての実践訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。</p>	<p>・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の充実</p>
36	(16)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を実施。いずれも夜間を想定したものを実施している。消火器の使い方、通報、救助法を実施し緊急時に備えている。また、運営推進会議において避難時に地域住民の協力をいただけるようお願いしている。避難場所なども地域の人と相談している。</p>	<p>年2回、夜間想定火災時の消火、通報、避難、誘導訓練を実施している。うち1回は消防署の協力を得ている。もう1回は施設管理者の協力を得て自動火災報知設備の使い方や通報訓練を行っている。地域との連絡網に地元の自治会長が入っている。運営推進会議でも話し合っているが、地域の人の訓練への参加はない。災害時の地域の避難所として事業所を発信している。災害時の食料や物品の備蓄がある。</p>	<p>・地域との協力体制の構築</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修で、人格の尊重とプライバシーの確保の研修を行っており、介護中の言葉かけにも、尊厳を損なうことのないよう、配慮している。職員同士でも、不適切な言葉かけに対して注意しあえるようにしている。</p>	<p>職員は、内部研修で接遇マナー、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて学んでおり、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時は、管理者が注意したり、職員間でも注意しあっている。記録物など個人情報は取り扱いに注意し、守秘義務を徹底している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の小さなサインを見逃すことのないように、表情や行動から希望や思いをくみ取るように努力している。その上で利用者本人の生活が出来るように過度な支援を行わないように心掛けている。また、利用者が自分で選べるような場面を作っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、居室で過ごす時間などスタッフの都合や時間を優先することなく、一人ひとりの体調やその人のペースに合わせて生活を送れるように支援している。一日を満足してすごせるように考えて支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容が来られ、本人の希望に沿って、カットやカラーをされている。いつも自分の好きな服が着られるように支援している。季節や状況にそぐわないものを選ばれたときは、本人と話し合いながら、決めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に料理の本を見たり、買い物に行ったりして献立を決めている。またホームの中庭で畑を作り、そこで採れた野菜などを使い、季節を感じながら一緒に料理を楽しんでいる。また配膳の手伝いもしていただいている。職員も一緒に食卓に着き、食事の時間をゆっくと楽しめる雰囲気をつくっている。また、季節の献立、行事食、誕生日、外食、おやつ作りなど食事が楽しみになるよう、工夫している。	職員が利用者の好みを聞いて献立を作成し、事業所の畑で収穫した旬の野菜などを使って、三食とも事業所で調理している。利用者の体調に合わせてきざみ食にするなど形態を工夫して提供している。利用者は、職員と一緒に食材の買い物や食材を洗う、皮をむく、切る、炒める、味見、盛りつけ、配膳、下膳、お盆拭きなどできることをしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで、同じものを食べながら会話をしながら食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、ひな祭り寿司、七夕のソーメン流し、誕生日のちらし寿司や手づくりケーキ、クリスマスのから揚げ、年越しそばなど)、おやつづくり(白玉、ホットケーキ、ゼリー、プリン、カップケーキ、焼き芋、どら焼き、クッキー、おはぎ、桜餅など)、ペランダでのバーベキュー、ハンバーガー、弁当持参の外出(リフレッシュパーク、火の山、老の山公園)、家族会での外食や食事づくり、外食(ファミレス、回転ずし)、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、食事量、形態を変えている。食事摂取量は健康チェック表に毎回記入し、一日を通じて確保できるようにしている。 また、水分確保については一日の中で、必要な水分が摂れるよう、スタッフと協力しながら支援しているが、まだ十分とはいえない。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、なるべく自分で行うよう口腔ケアの声掛けをおこなっている。定期的に義歯の洗浄、歯ブラシ、コップの消毒を行っている。訪問歯科の先生からの助言もいただいて、実行している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートや健康チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握している。トイレドアには、なじみの言葉で表示し、トイレの場所がわかるように工夫している。	24時間シートや健康チェック表を活用して排泄のパターンを把握し、プライバシーに配慮して一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に手作りヨーグルトや野菜など取り入れたり、散歩、運動など体を動かすことで自然な排便ができるよう、取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	習慣や希望に多様性があることを考慮し、ひとりずつゆっくりと入浴でき、楽しめるように支援している。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけや対応の工夫を行い、無理強いすることのないようにしている。体調に合わせて、シャワー浴や清拭、足浴等の支援をしている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、希望すればいつでも入浴できるように支援している。利用者の体調に応じて、シャワー浴、清拭、足浴、部分浴の支援をしている。好みの入浴材を使ったり、菖蒲湯やゆず湯にして香りを楽しんでいる。入浴したくない人には無理強いをせず、時間をずらしたり言葉かけの工夫をして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の疲れ具合の様子をみて、いつでも居室で休めるよう支援している。夜間ゆっくり休めるように散歩や運動を取り入れるなど、昼間の過ごし方を工夫している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については必ず薬の説明を個人ごとにファイリングし職員全員が把握できるようにしている。服薬後、症状に変化があった場合記録して職員間で共有し、医師、薬剤師に相談しアドバイスを受けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々な行事やリクリエーション、家事の手伝い、家庭菜園の水やり等、ひとり一人の力を活かした役割や楽しみ事で、喜びやハリのある生活をしていただけるように支援している。	畑で花や野菜の植えつけや収穫、プランターの水やり、モップかけ、ゴミ出し、溝掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食材の買物、食事の準備や片付け、テレビやDVD視聴、生け花、読書、歌を歌う、テレビ体操、リズム体操、いきいき体操、口腔体操、ラジオ体操、風船バレー、ボール遊び、トランプ、カルタ、書写、ぬり絵、ことわざ遊び、季節の行事(節分の豆まき、ひな祭り、七夕、そうめん流し、敬老会、クリスマス会、しめ縄づくりなど)、誕生日会、他事業所利用者とのお茶会、演奏会(法人内同好会職員による)、ボランティアの来訪、公園でのおやつ、ベランダでのシャボン玉、家族会での食事やケーキづくりなど、利用者一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとの場面をつくり、気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回外出の日を設けて、普段いけないところに行く機会を作っている。天気の良い日は散歩や近くの公園に出かけたり、交代でスーパーに買い物に出かけている。また、家族の協力を得ての外出、外食も支援している。認知症カフェでの交流も図っている。	近隣の散歩や公園での日向ぼっこ、おやつを買いに近くのコンビニエンスストアに行ったり、大型スーパーでの食材の買物、季節の花見(つつじ、バラ、紅葉)、園芸センター、リフレッシュパーク、東行庵、火の山、老の山公園、田中絹代記念館、公民館での歌の会見物、他事業所のフラダンス見学や童謡の会への参加、認知症カフェへの参加、家族会での外食、家族の協力を得ての一時帰宅、外出、外食、結婚式や法事への出席、墓参りなど、本人の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、少額の所持金を所持できるように支援している。また、必要なもの、欲しいものは買い物に行ったときに自分の所持金から使えるように支援している。所持金を持っていない方は、立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族や知人に本人が電話したり、こちらから取り次いだりできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、リビングを中心に北と南へ居室が並んでおり、広くゆったりとした廊下は歩行訓練にも利用している。台所からは調理中の食事の匂いを感じてお手伝いに来てくださったりと、自宅にいるような空間になっている。季節を感じるような壁面飾りを利用者と一緒で作って飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	リビングは、大きな掃き出し窓からの自然光で明るくゆったりとしている。玄関やリビングに花を飾ったり、壁に利用者と職員がつくった季節の折り紙や切り絵を掲示して季節を感じる工夫をしている。ベランダのプランターに花や野菜を植え、すぐそばの畑にキュウリ、ナス、ピーマン、ホウレンソウ、お多福豆などを育てている。対面式の台所から調理をする音や匂いがして、生活を感じることができる。廊下やリビングにソファを置き、利用者が思い思いに過ごすことができる場所となっている。温度や湿度換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横のテラスに椅子を設置し天候の良い日は、日光浴をしながら気の合った利用者と会話を楽しんでいる。廊下やリビングにソファが置いてあるので、気分が合った所で、気の合った利用者同士で会話をされたり、休憩されたりと、自由に過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド、布団、箆笥など本人が今まで馴染んで使用されていた持ち物を持参してもらい、心地よく落ち着いた生活ができるようにしている。 家族との写真を飾っており、安心して過ごせるようにしている。	利用者は、ベッド、寝具、ダンス、テレビ、テレビ台、小机、ハンガー掛け、チェスト、時計、ケータイ、鏡台、自作の木彫り作品、ぬいぐるみ、トレイ、メガネ、日用品、など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、カレンダー、日めくり、自分のぬり絵作品などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の動線は広くとっており、廊下、トイレ内、浴室などに手すりを設置している。各場所は馴染みのある言葉でわかりやすく表示しており、自立した生活が出来るよう心がけている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 椋野式番館

作成日: 令和 2 年 4 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	社内研修で応急処置の方法、感染症などの研修を行っているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける	・救急救命士を講師にしての実践訓練に全員参加する。 ・応急処置方法が全職員、身につくように、研修を行い、実践力を培う。	1年
2	36	災害時、地域住民の協力をお願いしているが、避難訓練時の参加はない。 災害時の避難経路が決まっていない。	災害時、地域との協力体制の具体的な構築	・避難訓練時の地域住民の参加のお願い。 ・災害時の避難経路を地域住民の協力のもと作成する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。